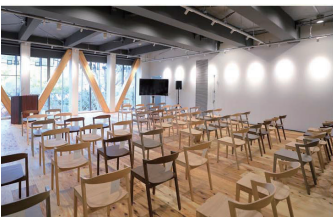
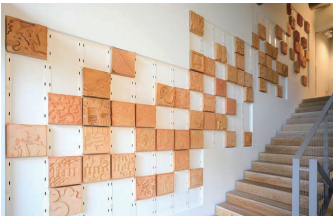


東京藝術大学 国際交流棟



外観

上野キャンパスに完成した「国際交流棟」は、木造と鉄骨造の混構造で地上5階建て。交流の場としてのさまざまな施設を備え、外壁面には「変化し続けるパブリックアート」を設置している。



内観

建物全体がアートを軸とした実験の場という役割を持つこの棟は、「共に藝(う)える」をコンセプトに「留学生交流パブリックアート」「地産地消パブリックアート」など、さまざまなアートが散りばめられている。

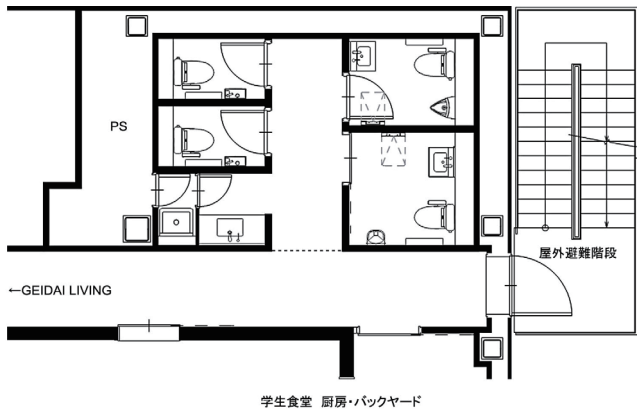


トイレ前通路



「GEIDAI LIVING」に繋がるトイレの入口は、視線に配慮して、見えにくいレイアウトとしている。通路には地産地消パブリックアートの一環として、台風で被害を受けた樹木を利用して制作した、突き出しサインを掲示。

2Fトイレ図面



水まわりの特長

建物の特徴

「東京藝術大学」は、芸術に関する教育研究の中核機関、国内唯一の国立総合芸術大学である。上野キャンパス内に完成した「国際交流棟」は、木造と鉄骨造の混構造で地上5階建て。留学生と共に学び、共に交流できる国際交流の拠点として、GEIDAI LIVING、コミュニティサロン、コモンスペース、茶室などが設けられている。『共に藝(う)える』をコンセプトに、「留学生交流パブリックアート」「地産地消パブリックアート」「変化し続けるパブリックアート」という3つのパブリックアートを設置するなど、建物全体がアートを軸とした実験の場という役割を持つ。憩いの場、展示・演奏などの発表、交流の場として自由に活動を展開していく、活気ある施設となる。

水まわりの特長

ダイバーシティ推進において、多様性が尊重される大学環境の実現に向け、水まわりにもさまざまな取り組みが行われている。国際交流棟では環境改善の一環として、これまで上野キャンパス内にはなかった、“だれもが気兼ねなく利用できるトイレ”を設置。各トイレは、一連の行為を個室内で完結できる個室完結型とし、限られたスペースの中で個室の大きさを切り分けながら、設備にバリエーションを持たせるなど、これまでの枠組みにとらわれない考えを取り入れた個室トイレが配置されている。またトイレとは別に、単独の手洗いコーナーを設置。トイレに入らずに手洗いできるため、昨今の衛生意識の高まりへの対応はもとより、トイレの混雑緩和も期待されている。

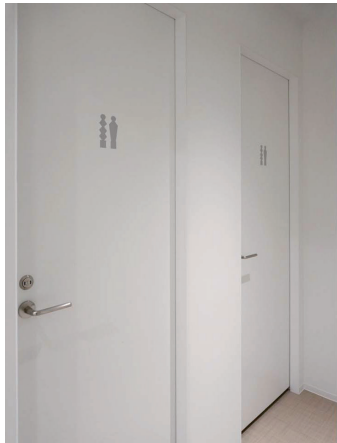
建築概要

名称	東京藝術大学 国際交流棟
所在地	東京都台東区上野公園12-8
発注者	国立大学法人 東京芸術大学
基本設計	東京藝術大学キャンパスグランドデザイン推進室、施設課 隈研吾建築都市設計事務所
実施設計監理	東京藝術大学キャンパスグランドデザイン推進室、施設課 前田建設工業株式会社 一級建築士事務所
デザイン監修	隈研吾建築都市設計事務所
サイン	藝大ファクトリーラボ(トイレ)
施工	前田建設工業株式会社 東京建築支店
竣工年月	(増築)2022年12月
建築面積	373.24㎡
延床面積	1,483.54㎡
構造・階数	鉄骨造、木造・地上5階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BC／ウォシュレットP:TCF589A
ウォシュレットPS(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5554APR
棚付二連紙巻器-YHB63NR／自動洗浄小便器-UFS900系
壁掛洗面器-LS722CM／壁掛手洗器-LSE50AP／台付自動水栓-TLE26501J
水石けん入れ-TLK05202J／フィッシングボード-YKA41R
コンパクト・バリアフリートイレパック:UADAZ01LA1ANN2WA
コンパクトオストメイトバック:UAS81LSB2NW／ベビーチェア:YKA15S

2023.05 作成 無断複製・転載禁止 ©TOTO LTD. 2023 All Rights Reserved 29460



トイレ入口



白を基調とした明るく清潔感を感じさせる空間。専用通路の左右に4つの個室完結型トイレが配置され、性別を問わずだれでも使用できる。各扉に掲示されたピクトグラムは、オリジナルデザイン。

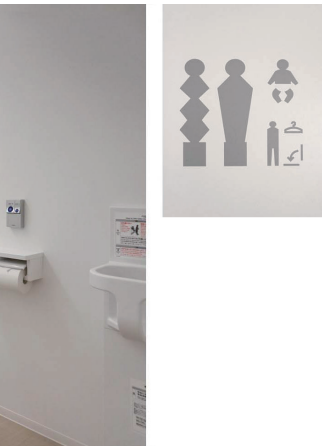


個室トイレ

すべての個室トイレの大便器は、奥行がコンパクトで連続洗浄可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式、洗浄リモコンはボタンを押すたびに発電するエコリモコンを採用している。

個室トイレ
(大便器・小便器併設)

4つの個室トイレのうち1ヶ所には、大便器と小便器の両方が設置されており、利用者は選んで使用することができる。また、着替え配慮としてフィッシングボードも設置している。

個室トイレ
(乳幼児連れ配慮)

4つの個室トイレのうち1ヶ所は、広めのスペースを確保。着替え配慮としてフィッシングボードを設置してほか、ベビーチェアも用意されている。



手洗いコーナー

トイレ入口には、手洗いコーナーを単独して設置。食事前後、トイレに入らずに手洗いができる。衛生面や利便性に加えトイレの混雑緩和も期待できる。



バリアフリートイレ

さまざまな利用者を想定し、1Fのバリアフリートイレには、車いすでアプローチがしやすいコンパクト・バリアフリーイレパックを設置している。